

学校教育目標：夢や目標に向かって仲間とともに主体的に学び、未来を創造できる生徒の育成

学校だより 第1号 2017年(平成29年)4月12日

鷹取中学校

笑顔であいさつ日本一
Fly! ~今飛躍の時~

●2017(平成29)年度 新しい鷹取中学校のスタートです。

◆生徒数 (4月12日現在)

1年生		2年生		3年生		計
男	女	男	女	男	女	
49	26	35	40	45	41	236

(人)

◆教職員メンバー (☆本年度から赴任)

学校全体 に関わる 教員	校長 田丸 誠 養護教諭 矢野 光世☆ 通級指導教員 小林 彰	教頭 前田むつみ☆ 仲 藤 藤 平 陽子【英語】 校務補助員 田口 佳奈☆ 学校相談員 三宅 和美	総務部長 矢吹 律子 介助員 浦上 美子 総務課員 横山 直子☆ 小助か 古市 志麻
担任	11R 築地 祥平【理科】 12R 藤原 俊輔【英語】☆ 7R 栗林 佑介☆	21R 平山 裕介【理科】 22R 高橋 久美子【国語】 6R 船石 耕生	31R 白神 一輝【体育】 32R 堺 実香【体育】 33R 内田 真梨子【音楽】 5R 藤井 美季【家庭】☆
副担任	平井 奈穂子【英語】 東 祐弥【社会】☆ 後藤 亨弘【数学】☆	藤井 敏和【数学】 松本 亮延【技術】 北川 祐子【美術】☆	藤井 敬子【英語】 徳永 志保【国語】☆ 山本 信三【社会】

◆部活動顧問

部活	陸上	バレー女	バスケット男	バスケット女	テニス男	テニス女	野 球	卓 球 男	水 泳	吹奏楽	情 報	創 作
顧問	白神	藤井美 高橋	栗林 船石	堺	平山	藤井敬	築地	藤原	藤井 敏 東	内田	平井	徳永

※本年度から市内の全中学校で平日の1日が部活動休養日になります。本校は木曜日です。

全校生徒236人が、毎日元気で学校に来て、仲間たちとともに成長し合い、力を付けられるよう、教職員一同全力を尽くします。

●学校教育目標を刷新します。

夢や目標に向かって仲間とともに主体的に学び、未来を創造できる生徒の育成

グローバル化、情報化、人工知能による職業の機械化、少子高齢化や人口減少など、現代社会の変化は急速で予測困難です。鷹取中学校区では、こうした変化の激しい社会を、子どもたちが将来たくましく生き抜くために、義務教育9年間で育成を目指す資質・能力(21世紀型スキル&倫理観)として「課題発見・解決力」「コミュニケーション能力」「主体性・積極性」「自己理解・自らへの自信」を設定しました。これらを踏まえて、鷹取中学校は学校教育目標を上記のように刷新します。

夢や目標に向かって

学校で子どもたちは日々の授業、学級活動、部活動など様々な学校生活の場面で「目標」を設定し、自ら考えた問いや課題について、解決のために論理的な思考を繰り返すことにより、「課題発見・解決力」を身に付けます。日々の「目標」の達成を目指して努力することが、より大きな目標としての「夢」の実現へつながります。

仲間とともに

夢や目標の達成は一人ではできません。鷹取中学校は伝統的に「仲間づくり」を大切にきた学校教育を進めてきました。創立50周年記念オリジナル曲「CHANCE~未来へ~」の歌詞にある「なによりも大切な仲間」とは、そのことを象徴しています。夢や目標の達成に向かって課題を解決する際に、一人ではなく仲間と協働しながら新たな価値を生み出すなどを通して、子どもたちは、「コミュニケーション能力」を身に付けます。

主体的に学び

子どもたちが資質・能力を身に付けるためには、仲間とともに行う課題発見・解決が「主体的な学び」である必要があります。「主体的な学び」とは、教えられたことを一方的に受け取るだけではなく、学習者が自ら能動的に学びを展開することです。子どもたちは主体的に学ぶ過程で、「コミュニケーション能力」「課題発見・解決力」とともに、自分で考え、他者のために積極的に行動できる「主体性・積極性」「自己理解・自らへの自信」を身に付けます。

未来を創造できる

資質・能力を身に付けた子どもたちは、自らの人生や社会をよりよく変えていくことができるという実感を持ち、地球規模の問題にも関わり、持続可能な社会づくりを担っていかうとする意欲を持つようになることが期待できます。「未来を創造できる」とは、義務教育で身に付けた資質・能力を駆使して、変化の激しい社会においてよりよい社会と幸福な人生を自ら創り出してほしいという願いを込めています。

新しい学校教育目標の実現を目指して、今後とも全教職員一丸となり、学校教育を推進していきます。

●全国学力・学習状況調査が実施されます。

【実施日】 4月18日(火) 【対象】 第3学年

【目的】・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証サイクルを確立する。

【内容】・教科(国語・数学)に関する調査

《主として「知識」に関する問題A、主として「活用」に関する問題B》

・生活習慣や学習環境に関する質問紙調査